

魅力ある教育環境PR

研修医対象、賞を創設

県医師会医学会

県医師会医学会（名嘉村博会長）はこのほど、年に2回開かれる県医師会医学会総会（県医師会主催）で優れた研究業績を発表した2年目の研修医を対象に「沖縄県医師会医学会賞（研修医部門）」を設立した。沖縄で研修を受ける医師にとって魅力的な医療教育システムを作ろうとの新たな取り組み。医療関係者によると研修医を対象に医学会が賞を設立するのは全国的に珍しい。11日に開かれた総会で初めて同賞の選考が実施され、最優秀賞には沖縄協同病院の永村良二医師（27）が選ばれた。



外科研修を受けている初期研修医（右端）＝29日、那覇市の沖縄協同病院（沖縄協同病院提供）

賞設立の背景には、2004年度の初期臨床研修の義務化後、06年度の149人をピークに、県内で同研修を受ける初期研修医の数が年々減少傾向にあることが挙げられる。

医大を卒業し医師免許を取得した医師には、現場での診療研修を2年間積む初期臨床研修が義務付けられているが、10年度は沖縄で研修を受けた初期研修医は、前年度比17人減の122人



永村良二さん

永村医師（沖縄協同病院）が初最優秀賞

にとどまった。危機感を募らせた医療現場からの声を受け、県医師会医学会が賞の設立を提案。6月の県医師会理事会と県医師会医学会分科会長会議で了承された。

初期研修医の減少について、同学会の田名毅副会長は「他の地域も初期研修医を獲得するための対策を取り始めたため。初期研修医の減少は医師不足に直結する」と指摘。「設立が了承されてわずか6カ月後に選考が実施されたのは、それだけ現場が危機感を持っているということ。選考基準や対象年次などを検討しながら続けていきたい」と話した。

沖縄協同病院の研修委員長・嵩原安彦医師は「県全体で研修医を対象にした賞を設立するのは日本で初めてではないか。若い医師の励みになる」と賞の設立を歓迎。最優秀賞に選ばれた永村医師は「普段から一人一人の患者の診療に真剣に取り組む姿勢が評価されたと思う。後輩たちもそういう姿勢で日々取り組んでほしい」と述べた。

（仲宗根祐希）